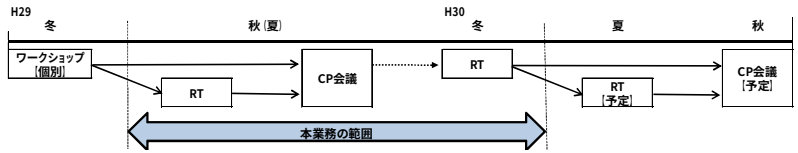
質問回答書

件名：伊賀市シティプロモーション推進支援等業務委託

番号	要領・様式の該当箇所	質　問	回　答
①	別紙①　3ページ	別紙①の3頁目にあるラウンドテーブルおよびシティプロモーション会議を実現するための仕組みのフロー図の中に「平成29年は実施済」とありますが、その内容はご提供いただけますでしょうか。	まちづくりラウンドテーブル（仮称）（以下「ＲＴ」）は冬、夏（今年度は秋）の２回の開催を１セットとし、その後、そこで出された意見やアイデアを実現するためのシティプロモーション会議（以下、「ＣＰ会議」）を開催することを想定しています。冬の開催については、平成29年２月に高校生向けワークショップ、社会人向けのワークショップ、外国人住民向け意見交換会を個別に実施し、意見を集約しました。それぞれの内容については別紙のとおりです。
②	仕様書　1ページ ３の(1)の①ア	「まちづくりラウンドテーブル（仮称）」の第２回の開催時期は、平成30年1月～2月の予定となっていますが、第１回シティプロモーション会議（平成29年12月頃予定）の後に開催するということでしょうか。第２回以降のシティプロモーション会議が想定されていて、そちらに内容を反映されるということでしょうか。	ＲＴとＣＰ会議の時期的な関係は回答①のとおりです。考え方としては、検討結果を次年度の予算編成等に反映をさせるため、年内中にＣＰ会議を開催するということです。よって、今年度第２回ＲＴの結果は、お見込みのとおり次年度の第１回ＲＴと併せて次年度ＣＰ会議に反映いたします。 
③	仕様書　2ページ ３の(1)の⑤	「まちづくりラウンドテーブル（仮称）」の第２回の開催は「地域住民による結婚支援の取組検討ワークショップ」との合同開催とするとありますが、この趣旨は何でしょうか。	「地域住民による結婚支援の取組検討ワークショップ」では、人口減少の要因である未婚率の上昇に歯止めをかけるべく、若者の定住に向けた結婚サポートのあり方について、地域住民をはじめ様々な方から今年度全４回のワークショップ形式で意見を交換することを予定しています。本事業との関係性としては、①地域での定住、Ｕターンに向けた方策など同一のテーマ設定が可能であると考えられること、②実施形式が同様であること（ワークショップ形式）、③参加者が重複する可能性があること（市民（若者）、伊賀出身の市外在住者など）、④開催時期が重なること　などから双方の開催のうちの１回を合同で開催した場合においても、それぞれの事業目的が達成できると考えられるため行うものです。

④	仕様書　1ページ ３の(1)の①ウ	市外在住の伊賀市出身者（20 歳～30 歳）に関する情報はご提供いただけるのでしょうか。	ＲＴの実施にあたっては、効果的な募集を行うための方法について事業者と市が検討を行います。その際、市が保有する情報のうち効果的な募集につながるものについては積極的に提供いたしますが、法令遵守の観点から住民基本台帳など個人情報を利用することは現時点では想定していません。 なお、RT開催時期に実施するイベントや行事との連携は想定しており、例えば「地域住民による結婚支援の取組検討ワークショップ」との合同開催を予定する第２回RTでは、市外在住者の帰省が見込まれる年末年始・成人式の時期での開催を予定していることから、それらに関連する行事との連携、情報共有等は想定しています。
⑤	仕様書　３ページ ３の(4)	伊賀市シティプロモーション指針及び伊賀市観光プロモーション戦略の改訂について、いずれもH29年3月に策定したばかりですが、どの程度の改訂を見込まれていますでしょうか。基本的な考え方は踏襲しつつ、より充実させていくという改訂ということでしょうか	仕様書にあるとおり、より実効性のある事業に取り組むため、自治体ＣＩの策定や伊賀市ふるさとサポーター制度の有効活用など、具体的な内容を含むものにブラッシュアップしようとするものであり、お見込みのとおりです。

※この回答に対する質問は受付できません。

別紙

高校生・社会人ワークショップ、外国人意見交換会の概要

報道関係各位

伊賀市 Iga City

平成29年2月8日

2017　地方創生　高校生ワークショップ
『私たちが創る未来の伊賀市』を開催しました

2017（平成29）年２月５日（日）市役所本庁舎において、 市内高校に通う現役高校生14名によるワークショップを行いました。

4つのグループに分かれてテーマについて意見をまとめる高校生

市長に対し、自分たちの考えを発表する様子

【本件のポイント】

- **昨年12月に、内閣府の認定を受けた２つの地域再生計画「Uターンを視野に入れたIGAMONO（伊賀者）育成事業」「ひとが輝く地域が輝くためのシティプロモーション事業」の一環として実施**
- **若者の大学進学時の県外への転出超過や、伊賀の魅力ある観光資源や地域産品を活用したプロモーションの推進など、伊賀市が推進する「まち・ひと・しごと創生」に関する課題や取組に対し、伊賀の将来を担っていく若者にスポットを当てた取り組みを推進**

【本件の概要】

市内4校（あけぼの学園高等学校、伊賀白鳳高等学校、上野高等学校、桜丘高等学校）の代表生徒14名が、４つのグループに分かれて「伊賀市の魅力を探して、どうやって伝えるのが良いか」「伊賀で活躍する人材になるためにはどうすればよいのか」について、意見交換を行い、グループごとにまとめた意見を市長に発表しました。

グループからは、伊賀鉄道を活用した観光誘客や、伊賀の四季や自然をPRすることなど、具体的なアイデアが提案され、岡本市長からは、「自分たちの未来を自分たちでつくるという意識をもって、自分が何者かを考えるところを出発点にしていってほしい」といったメッセージが高校生に送られました。

岡本市長、北出市議会議長を囲んでの記念撮影

《本件に関するお問い合わせ》　伊賀市　企画振興部　総合政策課　（担当：風隼、辻本）
TEL:　0595-22-9620　FAX:　0595-22-9672　E-mail sougouseisaku@city.iga.lg.jp

報道関係各位

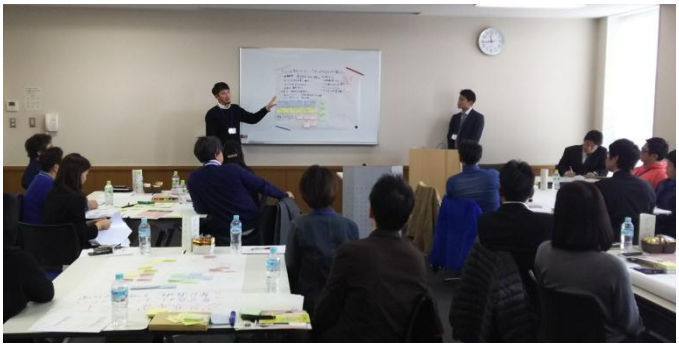
伊賀市 Iga City

平成29年2月13日

2017　地方創生　社会人ワークショップ『私たちが考える、おもてなし観光“プラス１”』を開催しました

2017（平成29）年２月12日（日）ハイトピア伊賀５階学習室において、市内在住の社会人の皆さん16名によるワークショップを行いました。

4つのグループに分かれてテーマについて意見交換を行う様子



グループの代表者が自分たちの考えを発表する様子

【本件のポイント】

- **昨年12月に、内閣府の認定を受けた地域再生計画「ひとが輝く地域が輝くためのシティプロモーション事業」の一環として実施**
- **伊賀市の「まち・ひと・しごと創生」に向け、魅力ある観光資源や地域産品を活用したプロモーションを推進していくため、様々な分野で活躍されている方々と連携した取り組みを推進**
- **２月５日（日）に開催した高校生ワークショップ「私たちが創る未来の伊賀市」に続いて実施**
- **同日午後には、外国人意見交換会「伊賀市在住の外国人の皆さんから見た伊賀観光の魅力とは」を実施**

【本件の概要】

伊賀牛生産者、伊賀ブランド認定事業者、サービス事業者など様々な分野で活躍する伊賀市在住の社会人の皆さん13名と市職員３名の合計16名が、４つのグループに分かれて「伊賀市を訪れる観光客にもっと満足してもらうためのアイデアとＰＲ方法」について意見交換を行い、グループごとにまとめた意見を発表しました。

各グループからは、「リアル伊賀越え」などインパクトのある体験型ツアーの企画や、まち全体が忍者になりきって観光客をもてなすこと、各産業組織の代表者で新しい団体を作り、地域の魅力をつなげて発信すること、伊賀市民が本気を出して観光誘客に取り組むことなど、大変多くのアイデアが出され、積極的な意見交換が行われました。

《本件に関するお問い合わせ》　伊賀市　企画振興部　総合政策課　（担当：風隼、辻本）
TEL:　0595-22-9620　FAX:　0595-22-9672　E-mail sougouseisaku@city.iga.lg.jp

- ワークショップ結果

高校生WSの結果

「伊賀市の魅力を探して、どうやって伝えるのが良いか」

チーム☆グリオ（松木）:「伊賀文化祭」

- 伊賀市の高校生が連携して文化祭を開催する。
  - 特産品をPRする。
  - 歴史的建造物を利用する。
  - **高校間で連携して開催する。**

チーム伊賀(池之上):「忍者列車で行く~IGAの街~」

- 伊賀鉄道を利用して、沿線の観光ツアーを提供する。
  - 休日・連休中に開催する。
  - 家族連れや外国人をターゲットとする。
  - フリーきっぷを活用して、スタンプラリーを実施する。
  - **上野地区だけでなく、沿線の各地区の魅力を発掘する。**

チームかたやき(平沖):「忍の村」

- キャンプ場に忍者をイメージしたアスレチック等を加えた、総合アウトドア施設を作る。
  - **「自然」という資源を活用しつつ、「忍者」という強みで他地域との差別化を図る。**
  - **温泉や特産品とのコラボレーション**も行い、伊賀の資源を網羅的に活用する。
  - 若者をターゲットとする。
  - インターネット(SNS等)を活用してPRする。

チーム忍者(石原):「伊賀で四季を感じよう」

- PR動画を作り、各季節の魅力を世界に発信する。
  - **季節毎に違った魅力を売り出す**ことで、リピーター獲得を狙う。
    - ✓ 春:地域の祭への参加、花見
    - ✓ 夏:伊賀鉄道
    - ✓ 秋:ハイキング、紅葉
    - ✓ 冬:忍者の日
  - **海外知名度を高めることで、日本人観光客の増加を目指す。**

高校生WSの結果

「伊賀で活躍する人材になるためにはどうすればよいのか」

チーム☆グリオ（松木）:「市民グローバル化」

- 外国人観光客に対応するためにも、市民のグローバル化が必要。
  - **観光ボランティアを高校生が実施する**
  - 学校においてEnglishTimeの時間を作る
  - **英語で伊賀市をPRしよう**

チーム伊賀(池之上):「必要な知識を積極的に吸収」

- 今後の伊賀市を担う高校生世代に必要な知識を吸収する機会をつくる。
  - 多世代との交流
  - 地域のことを学ぶ機会
  - **発信の場をつくる**

チームかたやき(平沖):「観光を盛り上げる人材」

- 伊賀の観光を盛り上げる人材が必要である。
  - **スキルアップが必要**
    - ✓ **コミュニケーション力の強化**
    - ✓ **言語力の強化**
    - ✓ 外国人文化・ニーズの理解

    ⇒英語を使う機会を増やす、外国人との交流、留学、外国人住民協議会との交流
  - 伊賀市のPRが必要。
    - ✓ **伊賀の知識**
    - ✓ **情報発信スキル**

チーム忍者(石原):「伊賀の今を知る」

- 伊賀市の過去ではなく、今と未来を知りたい。
  - **伊賀の今、未来を知る**
    - ✓ **伊賀ならではの職場体験**
    - ✓ **小学生ではなく、高校生が行う街の探索（マップ作成）**
    - ✓ 伊賀ツアー（伊賀市出身以外の高校生向けツアー）
  - 専門知識の習得。

社会人WSの結果

「伊賀市を訪れる観光客にもっと満足してもらうためのアイデアとPR方法」

チーム1:「忍者が活き付く街~伊賀を”ぎゅう”っとみてだぁ～こ~」

- 昔を感じる、魅力をつなぐツアーを開催する。**伊賀の全てをつなげて、街に人を流す。**
  - 各産業組織の代表者で新しい団体を作る。
  - 歴史的建造物を利用する。
  - 巻物など、各家庭に眠るお宝を発掘する。
  - 宿泊客増加のため、伊賀温泉を復活する。
  - **食べ歩きなどができるように、商店街の形態を観光客向けに変える。**

チーム2:「ジャンル別ツアー~インパクトを持ち帰る~」

- “インパクト”を重視して、様々なジャンルのツアーを開催する。
  - こだわりの強い、少人数の”通な”ツアーを開催する。
  - **伊賀市民が街を案内する。**
  - “リアル伊賀越え”など、**インパクトのある体験型コンテンツを作る。**
  - オシャレ感を出しつつPRして、若者受けを狙う。

チーム3:「まるごと忍者宣言」

- 一年を通じて忍者を満喫してもらえる街を作る。
  - **中心市街地で一日遊べる仕組み**を作る。
    - ✓ 空き家を忍者カフェにする。
    - ✓ 食べ歩きができるようにする。
    - ✓ 観光ルートを設定する。

チーム4:「本気出せ！伊賀市民」

- **伊賀市民が一丸**となって、伊賀を”忍者の街”にする。
  - 城下町で、忍者修行体験や食べ歩きができるようにする。
    - ✓ 一か所の施設で観光コンテンツの体験と特産品を食せる場所を用意し、より深く体験したい人はそれぞれの専門施設に行くように導線を確立する。
    - ✓ 食べ歩きが楽しめるルートを開発する。
  - PR動画を作成してSNS等で発信する。

- 外国人意見交換会結果

外国人意見交換会での意見

「伊賀市在住の外国人の皆さんから見た伊賀観光の魅力とは」

伊賀の良いところ

- ■ 忍者
  - ➢ 「伊賀」は知らないが、「忍者」は知っている。
  - ➢ アニメ等の影響で、忍者の知名度は高い。
  - ➢ **「忍者」から「伊賀」に繋がらない。**
  - ➢ 「忍者発祥の地」にはあまり興味は無い。**忍者を満喫できればどこでも良い。**
- ■ 伊賀牛
  - ➢ 「日本産」というだけで、中国では人気がある。
- ■ 伊賀焼
  - ➢ 特に**欧米人は焼き物に関心**がある。
  - ➢ 逆に、**アジア（特に中国）は自国に焼き物があるため、日本の焼き物には関心がない。**
- ■ 温泉
  - ➢ 中国人には人気がある。
  - ➢ **欧米人や東南アジア人は他人に裸を見せるのに強い抵抗感があるため、温泉を好まない。**
- ■ 自然
- ■ 寺

伊賀の悪いところ

- ■ アクセスが悪い
  - ➢ 大阪、名古屋から乗り換えが多く、不便である。
- ■ 街がさびしい
  - ➢ 上野市駅周辺に活気がない。
  - ➢ 上野市駅以外は、駅付近に観光で見る物がない。
  - ➢ スタバのようなカフェが無い。
- ■ 買い物ができない
  - ➢ **中国人観光客は日本製の日用品を買って帰りたいが、伊賀にはそれらを買う場所がない。**
  - ➢ ショッピングモールが無い。
  - ➢ **駅から商店まで遠く、車が無いと買い物ができない。**
- ■ 夜に行くところがない
  - ➢ **夜7時には街が暗くなってしまう。**